

教育理念

キリスト教の精神に従い、学校教育法の趣旨に基づいた教育を行う。
感謝の気持ち、祈る心を大切にし、自分のしたことと向き合うことや、間違えたことをしたら謝ること、相手を許すことを伝え、自己責任を持てる人になるように理念を掲げ、教育する。遊びを通して探求心を育て、人とのかかわりの中で自分の思いを友達に伝え、自他を認め、一人ひとりを大切に教育し、自己肯定感を育てる。

教育目標・方針

- 健康な体と心を養います。
- 命を大切に作る心を育てます。
- 互いに思いやる優しい心を育みます。
- 基本的な生活習慣・態度の基礎を培います。
- 一人ひとりの個性を伸ばし、感性を豊かに養います。

本年度の学校評価の具体的な目標や計画

園生活を自主的に過ごし、思いや願いを叶える手段を知り、
友達と共に生活をつくりだす喜びを感じ、共同と自立を養う。

取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子どもの主体性を引き出す	前年度より、子どもがより自分の意志で行動し、子どもが幼稚園生活を仲間と築いていかれるよう、支え、見守っていく。
クラス連携の在り方	限られた保育室、園庭の中で子どもが自分でやりたい遊びができるように保育者の立ち位置の確認などしていきたい。また、異年齢交流を大切に、育ちあえるものを育てていきたい。
素材・道具の研究 及び環境設定	物の正式名称から適した使い方などまず保育者が正しく知り、そこから子どもが工夫できる環境をつくる。子どもがわくわくするような手本を作り、使いやすい道具の設置を見出し、子どもの生活導線を考えていく。
子どもの視点を抑える	子どもの視点を着眼し、何に興味関心があるかを具体的に引き出し、カリキュラムを見直しつつ、興味関心を伸ばせる配慮を行っていく。

- 収穫したものに興味を持ち、食べてみようとする気持ちを育む。
- 情操を豊かにし、楽しんで表現することができ、人前でも自己表現できるように育てる。
- 体力を向上させ、空間認知や身体能力を高めていく。

評価項目の達成および取り組み状況

保育の在り方

A

- コロナ禍の状況下、様々な政策に対応し例年と変わらない保育ができた。
- 各担任が協力し、声を掛け合うことができた。
- 異年齢での交流の時間を多く持て、縦の関係がより親密になり、年上への憧れを持ち、成長することに期待する心を持たせることができた。また、子ども同士で助け合う姿が見られるようになった。
- 毎日の讃美歌や、コーラスサークルの歌声を聞く機会も定期的にあるからか、子どもの歌声は美しいと外部の先生にも褒められた。
- 絵本を集中しよく聞く姿勢が見られている。
- 年少児は、片足跳びを隙間時間に行っていたこともあり、片足跳びができる子どもが増えた。

教師としての資質、保育の質向上

B

- 毎日、その日の出来事、子どものことを話し合い、ほかの教員の意見も参考にし、子どもと向き合うことができた。また、保育の振り返りもできたように思う。
- 子どもの興味関心を捉え、保育環境を整えたり、その準備を行ったりしていたことにより、年長児は水彩で様々な色を作り出し描くことができた。
- 聖書のお話を聞くのが苦手な年中児に対し、わかりやすく聖書のお話を短く語り、年中児に興味を持たせ、聞く態度を育てることができた。
- 会議の時間に保育の今ある問題や、社会情勢のことなど同じ文章を読み、意見交換し、のぞみ幼稚園はどうするか?を考えることができた。
- それぞれに研究課題を持たせ、それを意識し、保育した。絵本、音楽、運動と環境設定、お祈りと様々な試みが見られた。
- 今年は外部に研修に行くことが少なかった。免許更新をしないといけない教員は、免許更新の研修に参加し更新した。

保護者への対応

B

- 子どもたちの活動を写真で伝え、現状を理解してもらう努力をしている。
- 教育理念は、幼稚園説明会で伝えていたが、よくわからないというご指摘を園評価で受けたので、ホームページ上に乗せ、来年度からは要覧にも載せていく。
- 保護者から話されたことは共有して全教員がそれを踏まえての保護者対応をした。
- 子どもの課題を保護者にわかりやすく説明し、協力を依頼した。また、家庭で起こる問題に対して、園でも園児が問題を乗り越えられるよう、できることを協力し、保護者との話し合いを大切にした。
- コロナ感染予防のため、保護者に協力していただくことが増えたが、幼稚園として、保護者が幼稚園の行事のための仕事に対してはホールや会議室で活動できるように開放した。
- 幼稚園の平常保育の時にはスカート禁止としたらズボンがない、フードのない上着がないなどの意見が出たので、服のリサイクル活動を行った。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B

- どのようにしたら、子どもが朝の準備に時間をかけずに自主的に行えるかを検討し、流れを考え、子どもが自主的に、なおかつ自分の私物を管理できるように環境を整え、ルーティン化したことにより、子どもの仕度・準備がスムーズに行われるようになった。
- 子どもの遊びたい、作りたいという思いをできるだけできるように材料を準備し、使用させ、その中で、作ったものを大切にすることを育て、廃材といえ、無駄にしないこと、道具の使い方を指導し、材料にも適材があることを知らせることができた。
- 集団活動が苦手な子どもも友達や教員の思いを受け入れるようになり、集団で一つのことをする時間を得ることができた。
- 健康に大切なことを、礼拝後に子どもに伝え、保健教育にも力を入れた。
- レックススポーツと協力して、子どもの運動する種目の目標を明確にし、一人ずつのうんどうノートを作成し、できたことにシールを貼り学年末に返却することにした。
- 園の畑を使い、野菜を植えて栽培し、園児が収穫し、園内で調理はできなかったが、家庭に持ち帰り、食べることに関心を持たせることができた。
- 保護者からのアンケート結果を教員で話し合い、改善すべき点はすぐに改善していることに加え、日常的に反省点や改善点についても話し合いの場がもたれている。
- 今年度は、教員が研修に参加する時間がなかなか持てなかったため、自分の研究したいことが研究できる研修を見つけ、参加できるよう、社会情勢がよくなることに加え、オンライン研修にも目を向けたい。

-
- A 十分に達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が十分ではない
 - D 取り組みが不十分である
-

今後、取り組むべき課題

自己肯定感を育てる

できないことをできるように一緒に取り組み、自信が持てるようにし、自己肯定感を育てる。自分の意見を友達に伝えられるように目や心、耳で気に留め、援助していく。

時間配分を考えて、保育していく

やるべきことばかりに追われることがなく、また、やるべきことができない状況を作らないためにも、必要なこととそうでないことをそれぞれ考えて時間配分をし、行動していく。また、獲得したいことは毎日の繰り返しの指導で身につけさせることができるように時間を考えていく。

保護者へのアピール

実践していることは何を育てることにつながっているのかを明確にし、端的に伝える努力をしていく。

子どもの視点を抑える

子どもの視点に着眼し、何に興味関心があるかを具体的に引き出し、環境を整え、カリキュラムを見直し、興味関心を伸ばせる配慮を行っていく。

令和4年度 幼稚園教育目標

- ・ 園児一人ひとりが、園生活を自主的に過ごし、様々な事に興味関心を持って取り組めるようにする。
- ・ 自分の思いを友達に伝え、友達の思いを聞くことができるように導く。
- ・ できないことができたときの達成感を味わい、自信につなげていく。

学校関係者評価委員の方の意見

- 保育園に預ける親が増え、教育やしつけを外部でという動きが増えている。親教育が重要なカギとなるのではないか？
- ➡ 確かに、保護者会参加の低下、小学校にあげるまでに、幼稚園で保護者とともに教育機関があることをきちんと伝えていかねばならないと責任を感じている。
- 行事が多いのではないか？もう少し減らしてみたらいかがでしょうか？
- ➡ コロナ禍となり、行事の見直しを教員と重ねてきた。結果、残ったものが現状にあり、幼稚園としてしていくべき行事と、のぞみ幼稚園ならではの行事が残った。調理活動を大幅に減らすが食育を今後も心掛けていく予定である。
- お弁当を給食弁当に切り替えてはいかがでしょうか？
- ➡ 給食弁当に切り替えるにあたり、下調べが必要であるように思う。

令和3年度 学校関係者評価報告書

令和4年3月28日に学校関係者評価委員会（委員6名）を開催しました。
会議において詳細な令和3年度自己点検評価表を回覧し、評価委員との意見交換を行いました。

| 本年度の重点課題

園生活を自主的に過ごし、思いや願いを叶える手段を知り、友達と共に生活をつくりだす喜びを感じ、共同と自立を養う。

(達成できたこと)

- どのようにしたら、子どもが朝の準備に時間をかけずに自主的に行えるかを検討し、流れを考え、子どもが自主的に、なおかつ自分の私物を管理できるように環境を整え、ルーティン化したことにより、子どもの仕度・準備がスムーズに行われるようになった。
- 子どもの遊びたい、作りたいという思いをできるだけかなえるように材料を準備し、使用させ、その中で、作ったものを大切に作る心を育てた。廃材といえども無駄にしないこと、また道具の使い方を指導し、材料にも適材があることを知らせることができた。
- 集団活動が苦手な子どもも友達や教員の思いを受け入れるようになり、集団で一つのことをする時間を得ることができた。

(これからの課題)

子ども同士で遊ぶ中で、ルール共有が難しく、また、強く言われると意見を言えない子どもも多くいた。友達に自分の思いを伝えられる子どもに育てることを課題にし、遊びを見守る姿勢で互いが意見を言えるように配慮していく。

| 評価項目達成および取り組み状況

| 具体的な目標の総合的な評価結果

| 今後取り組む課題

| 学校関係者の評価